



●菅木志雄さんの新作展の展示風景—小山登美夫ギャラリーで佐藤毅氏撮影
●THE CLUBの個展に出品された「縦横構線」(1996年)



「もの派」菅さん 三つの個展 アートピックス

思考と表現を体感

1970年前後に興り、近年は国際的評価を高める芸術運動「もの派」。その中心メンバー菅木志雄さん(74)が東京都内で三つの個展を同時開催中だ。「もの」と「場」をめぐる思考と表現が包括的に体感できる。

菅さんが扱う素材はほとんど未加工の石や木をはじめ、銅材、紙、ガラスなど多岐に及ぶ。東京・銀座のTHE CLUBで、その個展は主に金属を使った17点を展示(03・3275・5605、7月4日まで)。六本木の小山登美夫ギャラリーでは木を用いた20の新作がそろって(03・6434・7225、6月30日まで)。共に壁面にかける形式、さらに前者は80、90年代の作品が中心なので、通常ならまず作風の変遷や素材による差異が目がいくだろう。

だが今回通観して感嘆させられたのはスタイルの異なる一貫性である。素材、年代は異なっても「これ以上よさわしい形はない」と思わせる構造が空気を動かす。一方で、その魅力の源泉の一つが無造作に見えつつ思考を促した「もの」の扱いにあることも垣間見えた。

金属なら部分的に切る、曲げる、折る。木は四角いフレームを基本に角材や板片を並べ、重ね、つなぐ。それぞれ素材の性質に沿い、加工はわずかで足りない。なのに作品から生じる気配、周囲との関係、空気の流れや温度まで、何と違っていて感じられることか。「思考を発展させるために素材を変える」と菅さんは語る。透徹した実践の一端が伝わってくる。

また、渋谷の8/ART GALLERYでは写真作品とパフォーマンスの映像を紹介(03・6434・1493、25日まで)。後者は見えない空間や相互関係を鮮やかに取り出し、スリリングだ。

【永田優子】

国	作家	執筆者	文献タイトル	媒体名	発行日	頁	発行元	展覧会名
J	菅木志雄		思考と表現を体感	毎日新聞	2018年6月13日 夕刊	p.4	毎日新聞社	